



# まちは変わり~懐かしさが新しい

## —豊橋駅前大通地区のまちづくり—

石田 富男

新豊橋駅やココラフロントなど新しい施設がオープンし、さらに芸術文化交流施設の建設が進むなど大きな変化をみせている豊橋駅前大通地区。地域の人たちによってまとめられたまちづくりビジョンでは、歩き方指南ともいえるエリアごとのサブテーマがつけられた。豊橋のまちなかで独特の雰囲気をもつ地区は何をめざすのか。

### 時代の層が積み重ねられてきたまち

初めてここを訪れる人は、水上ビルという独特の特徴を持つ建物に驚く。その名の通り、水路（牟呂用水）の上に建設された建物であり、東西八〇メートルにも及ぶその姿はまちの背骨のようにもみえる。昭和四〇年前後に建設された下が店舗、上が住宅という三々五階建のビルであり、そこには当初から営業されている菓子、花火、玩具、雑貨といった問屋に加え、ブティックなど若者が経営するこだわりの店が新しくオープンし、渾然一体とした魅力を有する。

多くの飲食店があるのもこのまちの特色であり、古い建物を活用した店も増えている。地区への来街者に対するアンケートでは、年齢層によってまちに対する評価が分かれており、若い世代ほど「このエリアは魅力的」「歩いて楽しい」「夜のにぎわいがある」と思うものが多い。歴史の積み重ねが生み出すレトロ感が逆に若者には新鮮に感じられるのだろう。

### まちづくりビジョンでの「歩き方指南」

ビジョンではこのようなまちの特徴を活かし、五つのエリア設定を行い、まちの将来像を描くとともに、「歩く」をテーマとしてエリアごとに「歩き方指南」ともいえるサブテーマが設定されている。豊橋のシンボルストリートといえる駅前大通では「はればれ」歩きで出会う一杯。豊橋を代表する風格のある景観の中をお洒落に颯爽と歩くイメージだ。洒落た通りと魅力的な路地のある駅一エリアでは「にこにこ」歩きで夢気分。古い建物を活用した飲食店などをはしごする人が昼も夜も賑わいを生み出す。



歩き方指南のイラストを掲げたビジョンの表紙



地区の航空写真。左中央から右下に連続する建物が「水上ビル」(写真出典：まちづくりビジョン)

地区の中心に位置する狭間児童広場周辺はまちなか発展につながる交流のなごみであり、「まちのオアシス」の「ほのぼの」「ひと休み」。歩いてまちを楽しむには休憩する場所も重要だ。

地区を特徴づける水上ビルでは「ぶらぶら」歩きで宝物さがし。なつかしさをを感じる建物で個性ある店を訪ね、人のふれあいを楽しむ。

駅から離れた駅三エリアまでくると、歴史ある豊橋公園までもう一息。「いつも元気で、てくてく」「ウォーキング」。ここを起点にさらにまち歩きを楽しもう。

### まちづくり憲章

楽しく歩けるまちをめざし、人々の交流の拠点となるような広場を生み出すとともに、まちなかを回遊させるような魅力をエリアごとに生み出していこうというものである。ビジョンではその具体的な方向として、八つのまちづくり指針を定めるとともに、五つの重点事業が設定され、さらにまちづくりへの思いが「まちづくり憲章」として提唱されている。

ビジョン作成にあたっては、当初より豊橋技術科学大学大貝研究室が協力されていたが、二年目よりとりまとめ役として当社も関わらせていただいた。独特の雰囲気を持つまちの魅力とともに、まちづくりに対する地域の人々の意欲が何え、大きな可能性を感じている。



第8回都市型アートイベント sebone  
橋の名残が残る道路脇での音楽ライブ。壁の広告は今回の投票によって選ばれた作品(絵物語)が「かええほん」として掲げられる予定。

### まちの魅力を引き出すアートイベント

まちの魅力、まち歩きの楽しさを再発見するきっかけとして注目したいのが水上ビルを中心としてアートでまちの魅力を引き出そうと二〇〇四年から始まったアートイベント「sebone(せぼね)」である。まちを舞台にアート展示や音楽ライブ、スタンプラリーなどと同時に、ビジョンを作成したまちなみデザイン会議によるまちづくり展示や豊橋技術科学大学による建築展示なども行われる。

さらに、小学生による「お店をつくらう」という取り組みは子ども達がまちに関心を持つきっかけとして重要な意味を持つばかりでなく、子どもの取り組みを通じて大人がまちづくりについて考える場ともなっている。

まちの資源をその特徴を生かす形で活用し、まちに人を誘う、若者が積極的にまちづくりに関わる、子どもを通じて親の世代に働きかける、様々な主体との連携を図る。「みんなの思いを集めて大きな動きをつくりだす」まちづくり憲章が呼びかけ掛ける姿がそこにある。



第6回 お店をつくらう  
豊橋を売る店をテーマに作られたカレーうどんの店。精巧なつくりにも誰もが脱帽。

### ご当地グルメマップ

まち歩きの楽しみとして地元の味は欠かせない。そんな時にあると便利なのが「ご当地グルメマップ」だ。左のマップはまちを訪問した際に手にいれたものだが、特定のエリアに独特の味が集中していることがわかるとそのまちの個性が感じられ、食べ歩いてみたくなる。

「亀山みそ焼きうどん」、「四日市とんてき」は昨年9月に豊川市で開催された「中日本・東海B-1グランプリ」でゴールドグランプリ、シルバーグランプリを受賞。「豊橋カレーうどん」は、観光コンベンション協会が地域おこしのために新たに企画した商品で2010年4月に登場したものが人気は高い。ご当地グルメをまちを元気にする素材として有効に活用するとともに、みんなに楽しみながら歩いてもらうきっかけとしてマップづくりに工夫を凝らしたいものだ。

